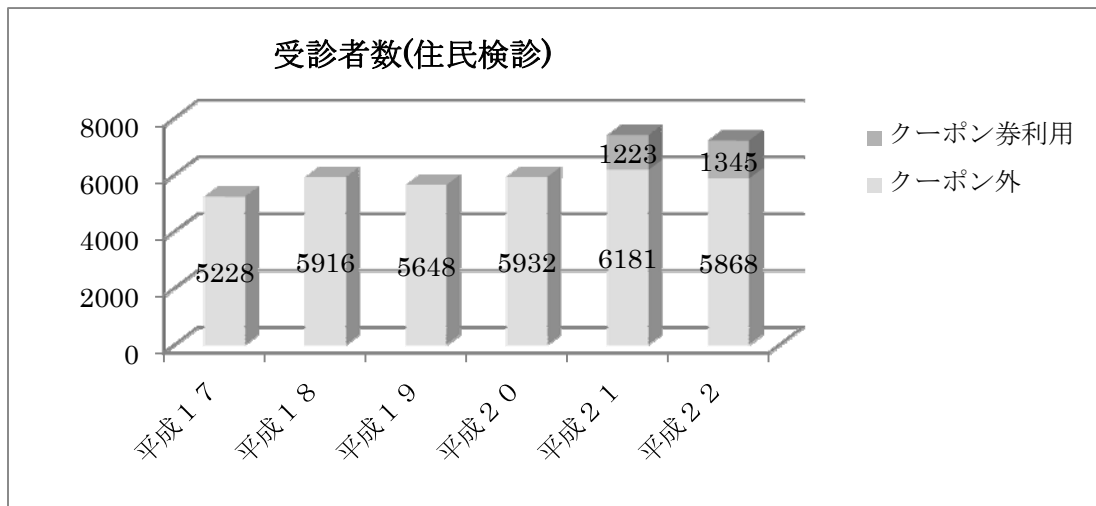


乳がん検診における無料クーポン券の有用性について

財団法人 鳥取県保健事業団

診療放射線技師 大久保ひとみ

平成17年度に乳がん検診は視触診+マンモグラフィの併用検診となりました。グラフ1は以降の保健事業団の乳がん検診受診者数を示したものです。



グラフ1：受診者数の推移(住民検診)

平成21年度より厚生省の女性特有のがん検診受診率向上の目的で特定年齢に無料クーポン券（検診料金無料）を配布する事業が始まりました。

住民検診の受診者数は平成21年度・22年度で大きく伸びていますが、このうち21年度のクーポン券利用者が1,223人、22年度では1,345人となっており増加は明らかにこのクーポン券の利用者によるものと考えられます。

1) クーポン券の利用状況

「クーポン券はどのように使われたのか？」を知るために平日検診と休日検診での利用状況を示したものが表1です。

表1：クーポン券の利用状況

	区分	*稼働数(回)	クーポン利用者数	クーポン利用率
平成21年度	平日検診	216	982人	4.5人
	休日検診	28	241人	8.6人
平成22年度	平日検診	241	1,134人	4.7人
	休日検診	31	211人	6.8人

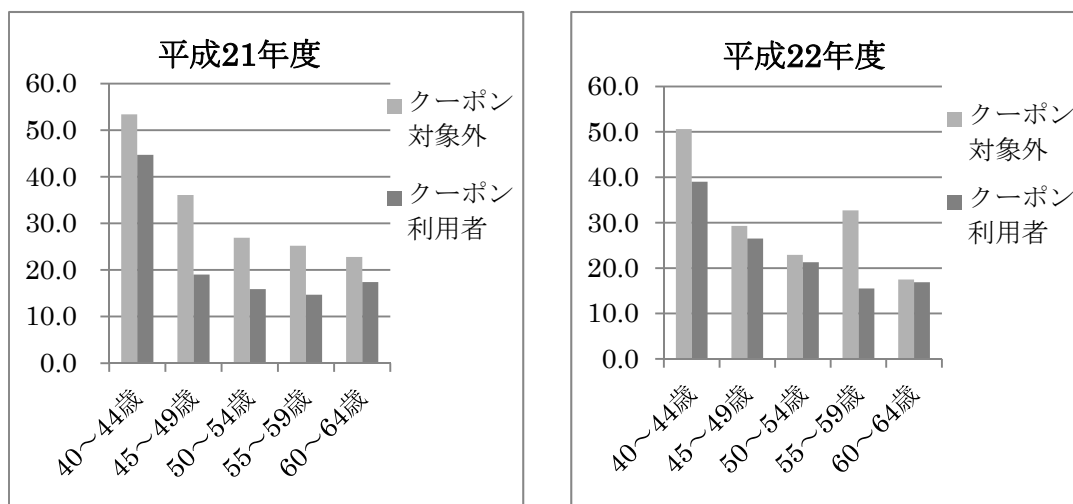
*半日を1稼働単位とする

結果は平成21年度、22年度ともに休日検診での利用率が高かったことが分かります。特

に初年度となった平成 21 年度では 2 倍近くが休日検診にて利用されていました。

2) 初回受診について

クーポン券の本来の目的である「受診のきっかけになったか？」に着目して初回受診の割合を年齢区分別に解析しました。

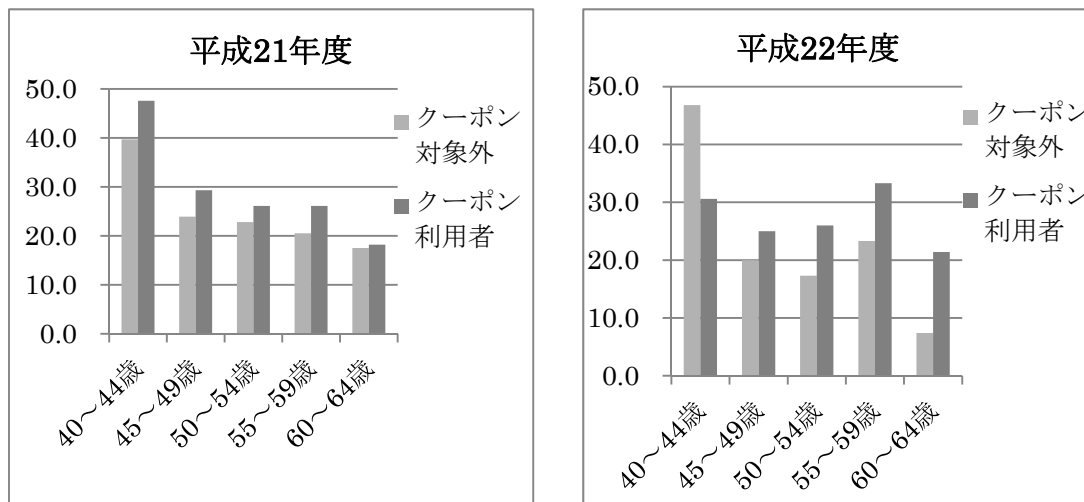


グラフ 2：初回受診者の割合

グラフ 2 はクーポン券の対象年齢に絞り、各年齢区分における初回受診の割合を示したものです。

平成 21 年度 22 年度ともどの年齢区分においても初回受診者はクーポン対象外で受診された方の中で多くクーポンが初回受診のきっかけになっているとはいえない結果でした。

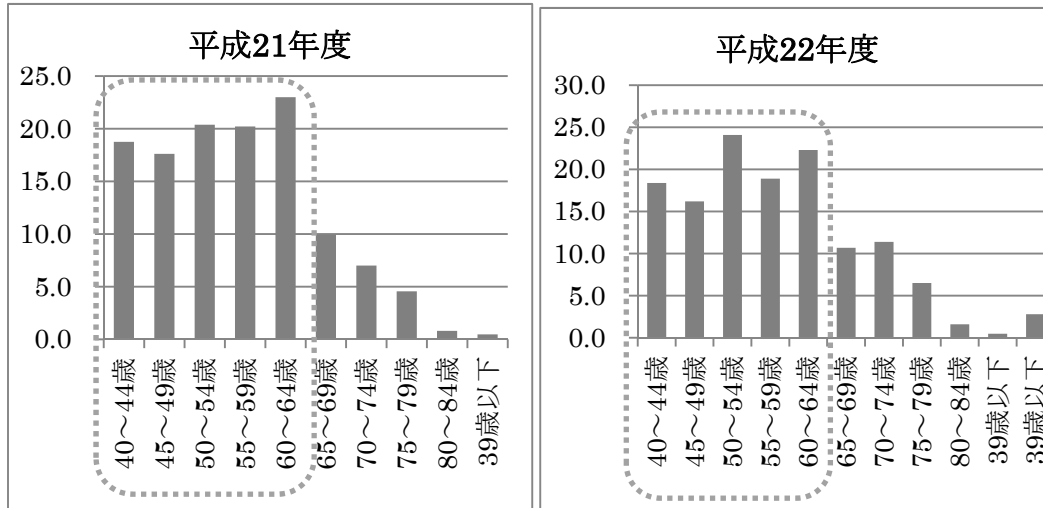
そこで利用率の高かった休日検診に焦点を当てて同様の初回受診の割合を示したものがグラフ 3 です。



グラフ 3：休日検診での初回受診の割合

平成 22 年度の 40～44 歳を除く各年齢区分において、予想通りクーポンを使つての初回受診者が対象外の方より多くクーポンの有用性が認められる結果となりました。

3) 休日検診の年齢構成



グラフ 4 : 休日検診受診者の年齢構成

さらに休日検診受診者の年齢構成を見てもグラフ 4 のように、クーポン券の対象年齢とほぼ重なる 40 歳から 64 歳の受診割合が高く、平成 21 年度で 81.4%、22 年度では 75.3%を占めること、それ以上(またはそれ以下)の年齢構成では極端に受診者数が落ちているということがわかります。

4) まとめ

- クーポン券利用受診者のうち初回受診の割合が高いのは休日検診であった。
- 休日検診受診者の年齢構成は 40～64 歳で全体の 75～80%を占めている。
- マンモグラフィ検診では撮影及び読影の関係から 1 検診当たりの受診人数に制限がある。

以上のことからクーポン券の有用性を高めることに重点を置いた場合には、年齢を絞った休日検診の実施が最も効果的であると考えます。